

**児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）**

実施：令和 4年 2月

事業所名 あるくと+

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		規定よりもかなり広めにスペースをとっている。	
	②	職員の配置数は適切である	○		加配をつけている。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		施設全体がバリアフリーになっている。	広さがあるが故に、死角になる部分もあるため、移動の際は、声掛けやルート等の工夫をしている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		各部屋に空気清浄器を設置。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		日々おこなっている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に一度実施。ご意見は真摯に受け止め、改善案を講じている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		結果をまとめ、ホームページにて公表している。頂いたご意見に対し、真摯に受け止め、改善策を講じている	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	実施できていません。	今後検討していく。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に職員研修を行っている。時には世代別に分かれて実施。	コロナ禍もあるので、zoomなども活用し、外部研修等にも積極的に参加できるような体制づくりを進めていく。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		定期的に実施、作成している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			今後、コロナ禍での地域支援がどこまでやれるのかが課題である。
支援の実践	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児発管だけでなく保育士等も関与。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		少人数での活動が主なので、その日のメンバーによって、活動内容を組み立てている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		一日の活動の中で、個別・集団の両方の活動を取り入れている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		保育園・幼稚園からの近況も共有しあっている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎回、幼稚園・保育園へのフィードバックしている。	

関係機関や保護者との連携	⑯	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎回、個別に記録をとっている。	
	⑰	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		チームで実施している。	
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		できる限り、二人体制で参加している。	コロナ禍で集まっての会議が難しくなってきてる。今後はZOOM等を活用し、できる限り参加していきたい。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて、情報を取り合っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当なし	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当なし	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		相談支援員とともに、情報共有を行っている。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		今年度初めて卒園児ができるので、移行支援を限り行っていく。	コロナ禍で、どこまで、学校へ介入しているのか、支援事業所と連携を取りながら進めていく。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		積極的に参加している。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		コロナ禍での活動は、現時点では難しく実施できません。
保護者への説明責任等	㉙	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		タイミングが合わず、今期は参加できていません。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々、連絡帳にて情報共有し、必要に応じて電話等でお伝えしている。	
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		八女市の保護者には、市からの案内も行っています。	
	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に、説明している。	
保護者への説明責任等	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		半年毎に更新し、ご同意いただいている。	
	㉞	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		適時、行っている。書面や電話、対面にて支援を行っている。	
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		現在、コロナ感染予防のため、保護者会（ママぶらす、パパぶらす）開催は見合わせている。
	㉟	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者様のご都合に合わせ、場合によっては、業務外の時間帯でも対応している。	
	㉟	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、会報誌を発行している。行事詳細は、その都度、個別にメール配信している。	今後は公式ラインを活用し、さらに情報発信を行っていく予定です。
	㉟	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵付き書庫にて保管	

非常時等の対応	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		情報伝達ツールとして、電話、メール、連絡帳等を活用している。	
	⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		事業所運営に関わる方々を招待し、子ども達との交流の場を設けている。	
	⑪ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	⑫ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回実施(地震・火災・水害)	
	⑬ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		必要に応じて、保護者様より情報を頂いている。	
	⑭ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			現在、該当なし	食事の提供はないが、食育などを実施するときは、保護者を通して医師の指示に基づいて行っていく。
	⑮ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		日々、共有している。	
	⑯ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年1回以上実施	日々、お互いの言動に気を配り、行き過ぎた言動にならないよう抑制し合っている。
	⑰ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。